

佐賀県立博物館に寄贈された山口県瀬戸内海諸島水道から産出した更新統哺乳類化石について

村上達郎

1 はじめに

2024年4月に佐賀県立博物館・佐賀県立美術館（以下、当館と記述する）に島根県在住の三上正子氏より山口県瀬戸内海諸島水道から産出した更新統哺乳類化石が寄贈された。瀬戸内海周辺の海底から長鼻類やシカ類など多くの大型哺乳類化石が報告されている（亀井，1991；長谷川ほか，1999；北川ほか，2006など）。本論では、寄贈の経緯、標本の特徴について記述する。

2 寄贈経緯

本標本が当館に寄贈された経緯を以下に示す。1972年（昭和47年）に島根県にある福正寺に奉納されていた化石標本4点を三上秀開氏から当館に寄託された。その後、長年、当館2号展示室の縄文時代の展示にて常設された。2024年三上氏より寄贈依頼があり、当館に寄贈された。

1972年（昭和47年）2月21日

三上秀開氏から上記標本4点寄託受入

時期不明

当時、鹿児島大学所属の大塚裕之教授により再同定

時期不明

2号展示室にて、標本2点を常設展示

2007年（平成19年）5月15日

三上秀開氏から秀成氏に名義変更

2024年（令和6年）4月9日

三上正子氏から寄贈申込

2024年（令和6年）4月16日

当館に寄贈受入

3 化石標本について

寄贈された標本の分類、計測値、特徴を記載する。計測位置はDriesch(1976)、仲谷（1979）、樽野（1988）、Otsuka(1988)及び北川ほか（2006）を参考にした。化石計測値に「+」が付記しているものについては、破損箇所があるため、計測できた部分のみの数値を記述している。

綱 哺乳綱 *mammalia*

目 長鼻目 *Proboscidea*

科 ゾウ科 *Elephantidae*

属 ナウマンゾウ属 *Palaeoloxodon*

Palaeoloxodon naumanni

図1

資料番号 H19-1

部位 切歯

計測値 最大長470+mm，最小矢状径100+mm，最小横径90+mm，最大矢状径110+mm，最大横径110+mm

記載

本標本は切歯の近遠心部が破損している。化石表面には貝類やサンゴ類などの付着性生物が一部見られる。本標本の背側の象牙質は破損しており、遠心部は3層、中央部は4層、近心部は5層欠損している。わずかに腹側に湾曲している。近心断面は円形で、象牙が6層確認でき、中央部には矢状径28mm，横径26mm，深さ50mmの円錐状くぼみがある。遠心断面は円状で、象牙が9層確認できる。本標本は不完全な切歯のため、左右の判断を行うことは困難である。

鋼 哺乳綱 mammalia

目 長鼻目 Proboscidea

Proboscidea gen. et al. indet.

図2

資料番号 H19-3

部位 環椎

計測値 最大長160+mm, 最大幅150mm, 前後長96mm, 椎孔長100+mm, 椎孔幅40+mm

記載

本標本は前関節面及び椎孔、横突起が確認できることから環椎である。環椎の半分が欠損しており、前面から見て、前関節面が左側にあるため、環椎の右側だと判断できる。横突起は先端部を欠き、背側部と腹側部がつながっていない。また、背側部も欠く。環椎後面にはサンゴ類や貝類などの付着性動物が付着している。前関節面は完全に残されており、縦に長い楕円形をし、わずかに腹側に湾曲する。前関節面の最大長は110mm, 最大幅は70mmである。後関節面は全体的には楕円形で、背側部は丸に近く、腹側部は中央部にかけて細くなる。

本標本はその大きさから長鼻類の環椎であると推測できるが、さらなる形質を見ることで明らかにすることができるであろう。

鋼 哺乳綱 mammalia

目 長鼻目 Proboscidea

Proboscidea gen. et al. indet.

図3

資料番号 H19-2

部位 大腿骨

計測値 最大長384+mm, 最大幅110mm, 最小幅90mm, 近位前後長55mm, 遠位前後長65mm

記載

本標本は近遠位部を欠く長骨で、骨は中空である。全面、後面、前面観から左側に付着性生物が付着している。前後方向にわずかに圧縮し

ているが、近位断面は内外側方向に長い楕円形、遠位断面は近位断面と比べて丸い。前方面観では、近位破断面から遠位方向に70mmの下に大きさ15mmのくぼみがある。本標本には上腕骨にみられる三角筋稜がないこと、橈骨にみられる尺骨の癒合部分が見られないこと、断面が三角形になる脛骨と異なり、楕円形であることから大腿骨であると判断できる。ただ、近位部、遠位部を欠くため、本標本が大腿骨の左右どちらであるかを判別することが困難である。

鋼 哺乳綱 mammalia

目 偶蹄目 Artiodactyla

科 シカ科 Cervidae

属 シカ属 Cervus

Cervus (Sika) greyi katokiyomasai

図4

資料番号 H19-4

部位 前頭骨

計測値 最大長（左右の角座下の骨間の距離）150mm, 最小長（左右の前方前頭骨間）120mm, 左右角座間の距離90mm, 角の長さ（角座含む）左右とも70+mm, 角幅20mm, 前頭骨の前後長65+mm, 角根の長さ20mm

記載

本標本は遠位部が欠損する両角があり、それにつながる前頭骨が保存されている。ただし、化石表面には多くの堆積物や付着性生物の付着が多くみられ、多くの特徴を観察することが困難である。そのため、外側に眼窩や頬骨につながる部分が見られない。前頭骨は腹側部までつながり、空洞を作っている。本標本はわずかに背側からの圧縮を受けている。背側面観において、上の堆積物と左右前頭骨の間には亀裂が入っており、接着剤で接合した形跡が見られるため、亀裂により入った線であるか、冠状縫合の形状であるかは判断が難しい。後方面観は堆積物の

付着が少ないため、わずかではあるが、特徴を観察することができる。前頭骨を含み、背側まで骨が確認できることが分かるが、左右及び背側部の堆積物のため、部位の特徴を見ることが困難である。前頭骨の後方部は欠損している、または冠状縫合の部分で頭頂骨と分離したのかを判断しにくい。冠状縫合の部分が残されているとするなら、今後の研究に役立つ特徴になると可能性がある。角は両角とも角座及び第一分岐角が確認できる。角座はほぼ円形である。角座から約20mmのところ前方側に第一分岐角が生えている。第一分岐角は左右とも10～20mmの長さでその先を欠く。

4 まとめ

2024年に三上正子氏から寄贈された山口県瀬戸内海で見つかった更新統哺乳類化石はナウマンゾウの切歯、長鼻類の環椎及び大腿骨、カトウキヨマサジカの前頭骨である。本論では、標本の状態や形態についてのみ記述しており、詳細な比較研究を行っていない。各標本の分類学的帰属は寄託された際の同定を基に記述している。今後の研究次第では、より詳細な分類学的帰属が明らかになる可能性もある。

5 謝辞

三上様にはこのような貴重な資料を当館に長年寄託及び寄贈していただき、厚くお礼申し上げます。また、本標本の寄贈受け入れに際し、お問合せさせていただいた方々には謝意を申し上げます。

引用文献

- Von Den Driesch A., 1976. *A guide to the measurement of animal bones from archaeological sites* (Vol. 1). Peabody museum press.
- 長谷川善和・伊藤 収・高栞祐司・野村正弘・塩島弘治, 1999, 瀬戸内海産脊椎動物化石「柴川コレクション」の概要について. 群馬県立自然史博物館研究報告, (3) : 61-76.
- 亀井節夫編著. 1991. 日本産長鼻類化石リスト. 亀井節夫編著, 日本の長鼻類化石, p288-241. 築地書館, 東京.
- 北川博道, 瀬戸浩二, 高橋啓一, 沖村雄二, 2006, 瀬戸内海西部諸島周辺海底から産出したナウマンゾウ化石. 島根大学地球資源環境学研究報告, 25, 31 - 47.
- 仲谷英夫, 1979, ウマ科動物骨格計測法(その2) — 四肢骨および脊椎骨の計測法 —. 化石研究会会誌, 12, 75 - 79.
- Otsuka H., 1988, Growth of antler in the subgenus *Sika* (cervid, mammal) from the Pleistocene Formation in the Seto Inland Sea, West Japan. Transactions and Proceedings of the Palaeontological Society of Japan, New Series, 148, 625-643.
- 樽野博幸, 1988, 備讃瀬戸海底の脊椎動物化石 — その1 — 長鼻類ほか. 倉敷市立自然史博編, 備讃瀬戸海底産出の脊椎動物化石 — 山本コレクション調査報告 I —, 本文編1 - 61.

【図版】

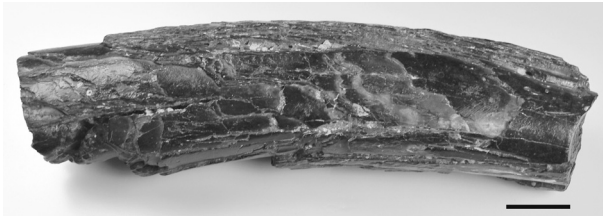


図1 番号H19-1 ナウマンゾウの切歯.
外側面観. スケールは5cm.



図2 番号H19-3 長鼻類の環椎.
近位面観. スケールは5cm.



図3 番号H19-2 長鼻類の脛骨.
前面観. スケールは5cm.

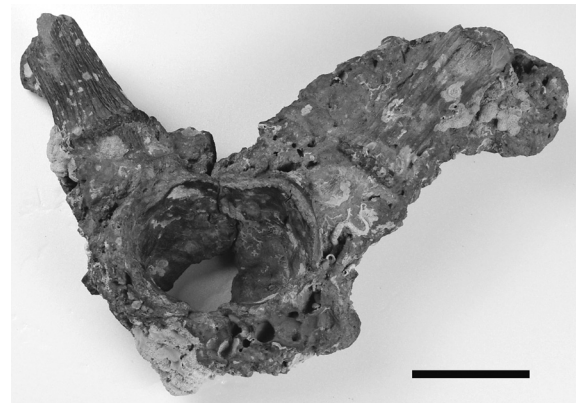


図4 番号H19-4 カトウキヨマサジカの前頭
骨. 背側面観. スケールは5cm.

(むらかみ・たつろう／佐賀県立博物館・佐賀県立美術館)